

New Campus(14)

広島大学理学部地球惑星システム学科

寺田健太郎¹

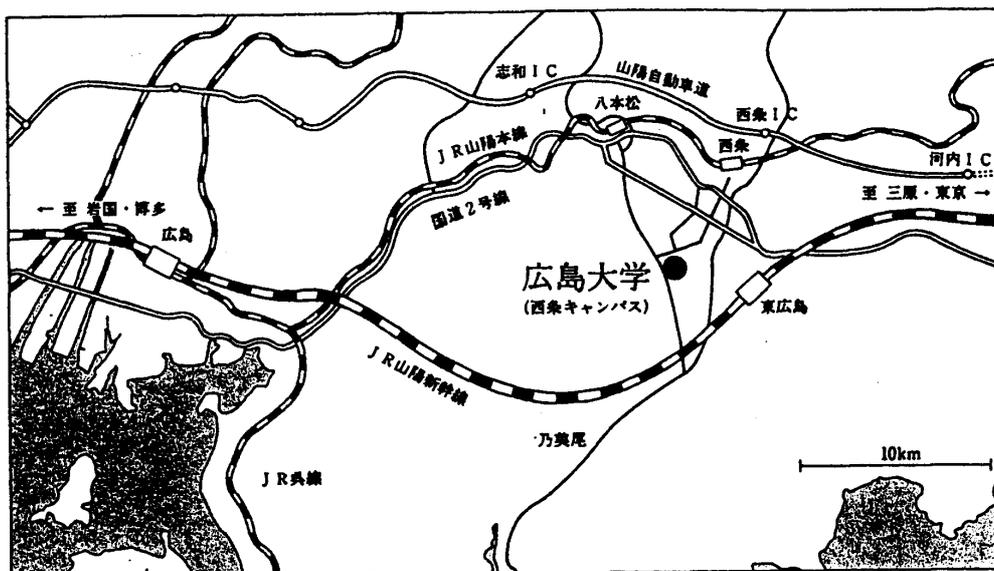
1. はじめに ～ようこそ東広島へ～

広島大学は、この3月に広島市内から総合移転を終えたばかりの文字通り「New Campus」の大学である。御存じない方も多いと思うが、移転先の東広島市は広島市内から車で40-50分程山奥に入った盆地に位置する、人口11万人（その10%が学生）の小さい街である（図1）^{ref1}。キャンパスが移転する前は、ブドウ畑が一面に広がる農村だったそうで、現在もキャンパスの周りには長閑な田園風景が広がっている。一方、大学の移転や昨年のアジア大会に関連して、国際空港・新幹線東広島駅・高速道路のICや幹線道路の拡大など地域の整備計画が大規模に進められており、発展途中の街である。

そんな東広島の一歩の目玉は、日本3大銘醸地の一つ「西条」の地酒であろう。街の中心部には「白牡丹」「賀茂鶴」「賀茂泉」を始め10社近くの白壁造りの酒蔵が密集し、アンティークな雰囲気醸し出している。毎年10月上旬には、飲ん兵衛「垂涎」の「酒まつり」が開かれる。開催中は、酒蔵が無料開放され利き酒もできることもあって、全国から酒好きの老若男女が集まり昼間から赤ら顔で闊歩するという街を挙げてのビックイベントである。酒に目のない方は、その頃広島大学に出張されては如何であろうか？

2. ニューキャンパス

広島大学のニューキャンパスは、緑や池等の自然と赤煉瓦作りの校舎が、見事にマッチした学園





である (図2)。研究に行き詰まったときに、野鳥の声を聞きながら、虻注意の看板のあるキャンパスを散策するのはなかなか乙なものである。キャンパスの広さをもてあましている感はあるが、空間的にも時間的にもゆったりしており、研究や瞑想するにはもってこいのキャンパスである。大学の周囲には娯楽施設も学生街もまだなく、「研究に専念せざるを得ない環境」と言った方が正しいかもしれない。お洒落な学生生活を満喫しようとしている学生には不満だらけのようである。

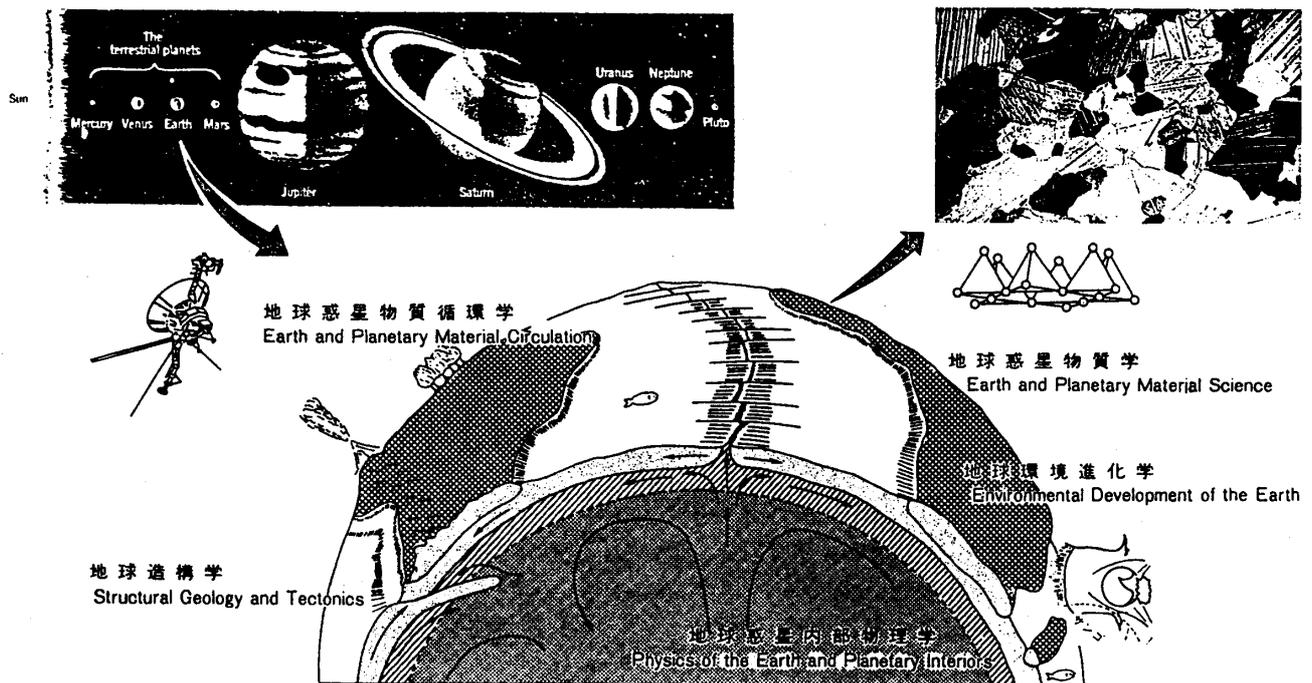
聞くところに寄れば、今回の移転に伴って「キャンパスの広さ」だけでなく「学生の同棲率」も日本一になったそうである。このような環境を考慮してか、大学のキャンパス内の生協で避妊具を販売しているぐらいである。ひょっとすると「男女の〇〇〇〇〇」も日本一なのではないだろうか？

3. 地球惑星システム学科 (建て前)

そもそも広島大学は、昭和24年「かつての旧帝大に匹敵する本格的な総合大学にせんとする」「地域性のある大学にする」という構想のもと、旧制広島文理科大学と広島高等師範を母体に創設された教育研究機関である^{ref2}。創設以来、地質学関係

(表) 地球惑星システム学科 (1995年9月現在)

講座名	職名	氏名
地球環境進化学	教授	沖村雄二
	助教授	宮本隆実
	助手	矢野孝雄
	助手	狩野彰宏
地球造構学	教授	原 郁夫
	助教授	竹下 徹
	助手	早坂康隆
地球惑星物質学	教授	竹野節夫
	助教授	北川隆司
	助手	大川真紀雄
地球惑星物質循環学	教授	佐野有司
	助教授	渡辺 洵
	助手	星野健一
地球惑星内部物理学	助手	寺田健太郎
	教授	本多 了
	助教授	蓬田 清
	助手	五十嵐丈二
事務	助手	中久喜伴益
	技官	南 朝生
	事務官	小林千賀子
	事務補佐員	小林康子



で数々の業績を挙げてきた理学部地学科（地質学・鉱物学専攻）が、平成3年9月の理学部の東広島への移転を機に改編され、現在の「地球惑星システム学科」ができた（と聞いている）。さてこの「システム」の意味するところであるが、平成6年度広島大学大学院理学研究科紹介ref3には「地球・惑星科学の諸分野の有機的関連を追跡する教育組織」と記述されている。抽象的な表現ではあるが「帝国大学に負けない広島独自の研究を行おう」とする広島人の心意気が、読者のみなさんにも伝わったのではなかろうか。

さて当学科は、現在は別表の様ように、地球環境進化学、地球造構学、地球惑星物質学、地球惑星物質循環学、地球惑星内部物理学の5講座から構成されている(表参照)ref4。しかしこれは、在籍しているスタッフですら聞き慣れない分類で、実際は以下のような6グループに分かれて、研究・教育を行っている（図3）ref5。ここで*印は、地球惑星システム学科への改編時に新たに加わったグループである。

名称	研究テーマ
地史学グループ	堆積・古生物相からみた地球史
岩石学グループ	地球造構学と岩石反応変形学
鉱物学グループ	結晶の構造や成長や鉱物の成因
鉱床学グループ	鉱床成因論や物質移動機構
物理学グループ*	ジオダイナミクスや惑星内部構造
化学グループ*	同位体地学や惑星及び地球環境科学

このようなグループ分けはされているものの、学科のスタッフ全員が集まるミーティングが月に数回開かれることもあって、グループ間で議論したり飲んだり、比較的横の繋がりもある和気藹々とした学科である（と、遊星人には書いておこう）。

4. 地球惑星システム学科（本音）

さてここまで読んで来られた皆様方は、「広島に惑星関係があったの?」とか「最近の成果は何?」

と言う感想をお持ちの方も多であろう。実際のところ、このような「広島独自の地球惑星科学」というものは、私を見る限りではまだ形には表れていないようである。むしろ、平成6年度広島大学大学院理学研究科紹介ref3にあるように「さらなる改革にむけ、各研究室は従来の枠から脱皮した研究・教育の動向を模索し、これまで学際と呼ばれた研究分野を取り入れ、有機的関係の進化を探つて研究を進めている」段階というのが正直なところである。「地球惑星システム学科」という名前に憧れて入学してきた学生が卒業生となる今年、そろそろ「模索した結果」が芽生えてくるのではないだろうか、楽しみしている。

更に地球惑星システム学科の発展をサポートするかのよう、広島大学では昨年度の大学院最先端設備費で、世界的にも屈指の性能を持つ高感度二次イオン質量分析計 (ShrimpII) を購入した。私の属する化学グループでは、微小領域の二次元元素マッピングや高エネルギー分解能分析を行い、地球を含めた太陽系形成論に一石投じ得る結果を導き出す努力をし始めたところである。まだ何分若輩グループであるので、この場を借りて、学外の惑星関連の諸先生方からの温かい御指導御鞭撻を切望するところである。

5. おわりに

日本の惑星科学の分野は、従来の分析・観測的アプローチに加え、月や惑星探査等の全く新しいアプローチへと時代が始まろうとしている。また全国至る所に「〇〇惑星科学科」なるものが現われ、百家争鳴の戦国時代の様を呈しているのも事実である。現在の広島大学地球惑星システム学科は弱小集団ではあるが、かつて広島の名将・毛利元就が説いたように、我々の個々の「矢」が「三本の矢」よろしく「システムティク」に絡み合ったとき、全国の武将を震撼させる存在となるであ

ろうと、地酒を飲みながら夢見ている今日この頃である。

連絡先

〒739 東広島市鏡山1-3-1

広島大学理学部地球惑星システム学科事務室

電話 0824-24-7459 or 0824-24-7469

ファックス 0824-24-0735

参考文献

ref1 ひがしひろしまぐるーりマップ (1994)

ref2 広島大学白書1 「新しい大学像をめざして」 (1995)

ref3 広島大学大学院理学研究科紹介 (平成6年)

ref4 平成7年度学生便覧 (広島大学理学部, 広島大学大学院理学研究科)

ref5 広島大学理学部 (1994)